

家でもない。  
職場や学校でもない。  
3つめの場所で何しよう。



SINCE 2012



# アートを介してコミュニティを育む ソーシャルデザインプロジェクト

## 「とびらプロジェクト」とは？

「とびらプロジェクト」とは、東京都美術館と東京藝術大学が連携して行っているアートを介してコミュニティを育む事業です。毎年広く一般からアート・コミュニケーター（愛称：とびラー）を募集しています。とびラーは、学芸員や大学の教員、また第一線で活躍中の専門家を中心としたプロジェクトチームと共に美術館を拠点に活動しています。とびラーの活動は、美術館で多くの作品に出会い、対話することから全てがはじまります。人と作品、人と人、人と場所をつなぎ、美術館に集まる多種多様な人びととのコミュニケーションを大切に、そこで育まれた新しい価値観を社会に届けていきます。

### 東京都美術館の ミッション

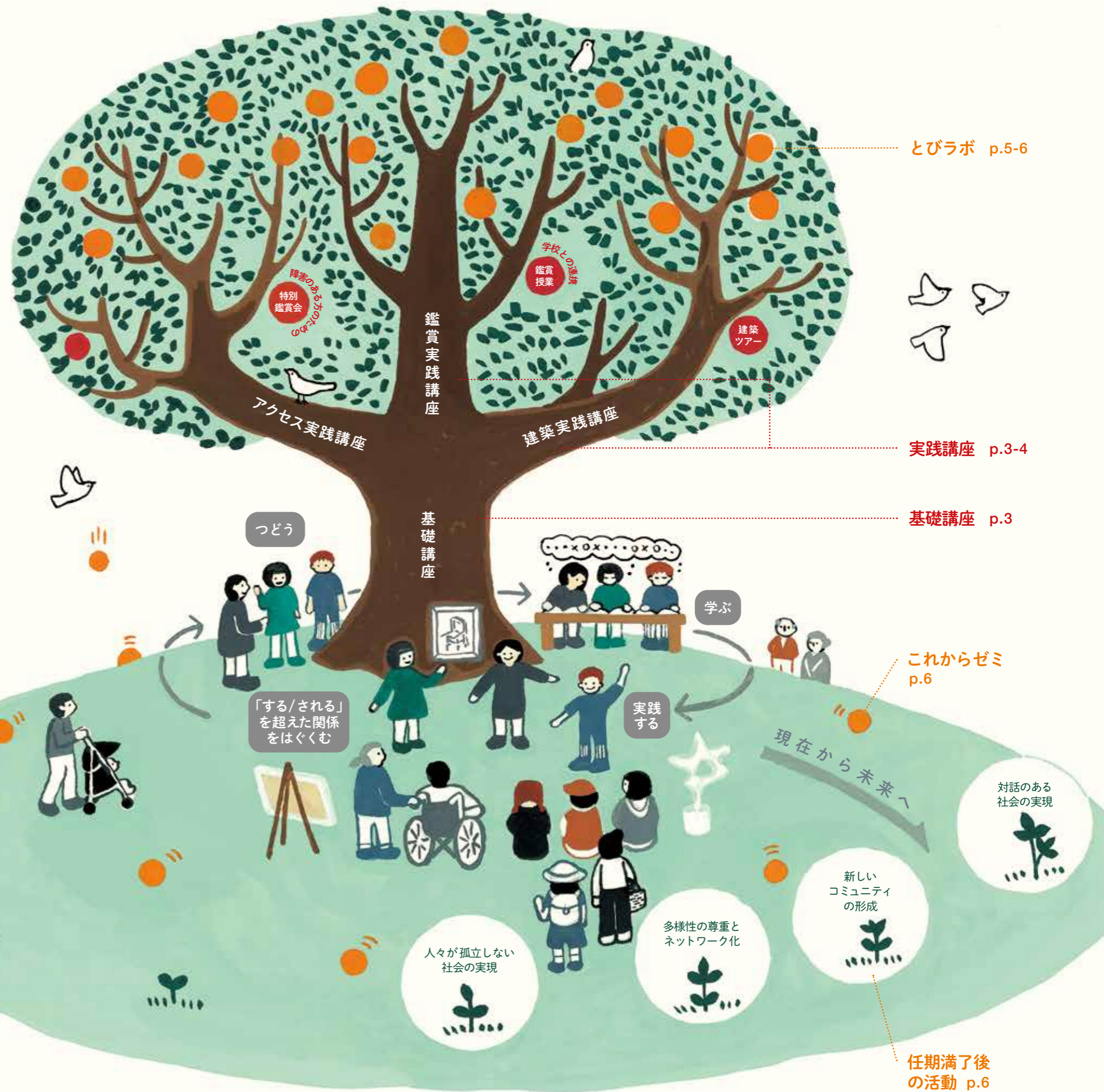
東京都美術館は、展覧会を鑑賞する、子供たちが訪れる、芸術家の卵が初めて出品する、障害を持つ人が何のためらいもなく来館できる、すべての人に開かれた「アートへの入口」となることを目指します。新しい価値観に触れ、自己を見つめ、世界との絆が深まる「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」を築き、「生きる糧としてのアート」と出会う場とします。そして、人びとの「心のゆたかさの拠り所」となることを目指して活動していきます。

### 東京藝術大学からの メッセージ

東京藝術大学は、芸術の基本である「もの」としての作品に加えて、「こと」としての芸術に取組み、市民が芸術に親しむ機会の創出に努め、芸術をもって社会に貢献します。アートを介したコミュニティづくりは、作品を創造する人、そしてそれを享受する人を含め、人びとのクリエイティブな力が生きる社会をつくることにつながります。

## アート・コミュニケーター（愛称：とびラー）とは？

- アート・コミュニケーター「とびラー」とは、東京都美術館の略称「都美（とび）」と、「新しい扉（とびら）を開く」の意味が含まれた愛称です。会社員や教員、学生、フリーランサー、専業主婦や退職後の方など18歳以上の様々な人たちが構成されています。
- 美術館で多くの作品に出会い、対話を通して新しい価値観を発見していきます。
- とびラーはボランティアな活動ですが、美術館のサポーターではありません。学芸員や大学の教員や専門家とともに活動する能動的なプレイヤーです。
- アートを介して誰もがフラットに参加できる対話の場をつくりだし、様々な価値観を持つ多様な人々を結びつけるコミュニティのデザインに取り組んでいます。
- とびラーの任期は3年間です。
- とびラーは、3年の任期を満了した後も、とびらプロジェクトとのつながりを保ちながら、アート・コミュニケーターとして実社会で活躍することが期待されています。
- 任期満了した後も多くのとびラーが、とびらプロジェクトを通して育んだスキルやネットワークを活かしながら、対話のある社会の実現に向けた活動を継続しています。



とびラボ p.5-6

実践講座 p.3-4

基礎講座 p.3

これからゼミ p.6

任期満了後の活動 p.6

# 学ぶことと実践すること

まずはじめに！

いよいよ実践！

## 基礎講座 (4月～6月:全6回計24時間)

「基礎講座」は、新しいコミュニティづくりの基本を学ぶ講座です。1年目のとびラーは全員必ず参加します。美術館での活動とはどのようなものか？ 対話やクリエイティブなコミュニケーションが起こる場づくりとは？ など、とびラーの活動を支える基礎的な物事のコトを参加形式で学んでいきます。



### Lecturers' profiles

**日比野克彦** 東京藝術大学教授 とびらプロジェクト / Museum Start あいうえの 代表教員  
作品制作に加え、多くの人とワークショップ形式で地域の特性を生かした活動を行っている。受け取り手の感受する力に焦点をあて、社会で芸術が機能する仕組みを創出する。

**西村佳哲** プランニング・ディレクター / リビングワールド代表 / とびらプロジェクト・アドバイザー  
つくる・書く・教える、3種類の仕事。ウェブサイトやミュージアム展示物などのデザインプロジェクトの企画・制作ディレクションに従事。著書に『自分の仕事をつくる』など。

**森 司** 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 事業推進室事業調整課長 / とびらプロジェクト・アドバイザー  
人・まち・活動をアートで結び、東京のさまざまな魅力を創造・発信する「東京アートポイント計画」ディレクターを勤める。アーティストと市民との協働を実施している。

**稲庭彩和子** 東京都美術館学芸員  
アート・コミュニケーション係長  
2011年よりアート・コミュニケーション事業を統括。鑑賞ワークショップや展覧会の企画運営など手がける。共著に『100人で語る美術館の未来』『メディアとしてのミュージアム』等。

**伊藤達矢** 東京藝術大学特任准教授 とびらプロジェクト / Museum Start あいうえのプロジェクト・マネージャー  
地域で行なわれるアートプロジェクトのディレクターを勤めるなど、多様な文化プログラムの企画立案に携わる。共著に『TOKYO1/4が提案する 東京文化資源区の歩き方』(勉誠出版) など。

## 実践講座 (7月より)

「実践講座」では、美術館で起こる実践的な場面を想定して設けられた3つのコース「鑑賞実践講座」「アクセス実践講座」「建築実践講座」の中から1つ以上を選択できます。

### 1 鑑賞実践講座

対話を通して作品を楽しみ、鑑賞を深める活動について学びます。鑑賞者が自由な発想で、主体的に鑑賞できる機会をつくるにはどうしたらよいか、「鑑賞の場をつくる側」の視点を持ちながら考えていきます。

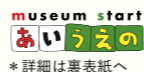
- ・対話による作品鑑賞のファシリテーションを学ぶ
- ・国内外の美術館や学校での鑑賞プログラムの事例を知る

例えば、ココで活かされます

#### スペシャル・マンデー



展覧会の休室日を利用して、学校単位で美術館に訪れることもたちの鑑賞の伴走役として活動します。



### 2 アクセス実践講座

美術館にある作品や文化財を活かし、多様な人々が芸術や文化につながるための新たな回路をつくる活動と、その意義について考えます。

- ・多様な人々にとって意義のある美術館の活用について考える
- ・ワークショップのつくり方と実践のポイントを学ぶ

例えば、ココで活かされます

#### 障害のある方のための特別鑑賞会



障害のある方のための、休室日を利用した特別鑑賞会です。とびラーは会場の運営や鑑賞のサポートを行っています。

#### ダイバーシティ・プログラム



教育格差や外国につながる子どもたちの状況等の社会課題について学び、美術館を利用しにくいファミリーに呼びかけ、共に文化やアートを楽しむ活動をつくっていきます。



### 3 建築実践講座

前川國男が設計した東京都美術館の建築への関心を軸に、より広い視野で建築の魅力、建築と人々の関わりについて考え、建築空間があるからこそ生まれる活動をつくっていきます。

- ・東京都美術館の歴史を学ぶ
- ・ツアーコースをデザインすることで美術館の魅力を発見する

例えば、ココで活かされます

#### とびラーによる建築ツアー



とびラーは東京都美術館の建築物としての魅力を伝えるツアー・ガイドとして活動します。どのコースもとびラーのオリジナルです。

とびラーは「基礎講座」、「実践講座」、「とびラボ」を通して、東京都美術館のミッションと東京藝術大学からのメッセージを共有し、とびラーとしての役割の理解を深めていきます。学ぶことと現場で実践することのサイクルがあることで、美術館を拠点とした活動がさらに充実したものになっていきます。

### とびラーの声

はじめて子どもたちと展示室の床に座って作品を鑑賞した日。みんなの発見や気づきに、もっとこの場で話したい!と思ったのを覚えています。とびラーは、一緒に感じて一緒に楽しむ仲間。アートってシンプルにフラットに関わることでできるもの、ということを気づかせてくれた活動です。



ここではだれもがフラットな関係なのが良かったです。背景の違うとびラーが得意、不得意を補い合って手作りで作り上げるプログラムは日常や仕事とは一味違う醍醐味を教えてください。今まで知らないことや、体験できないことに挑戦できるのも互いに信頼感が持てるのとびラーという空間があるからでしょう。



美術館や展覧会を、これほど様々な角度から見つめ・楽しめる人達とはとびラー以外いないと感じる毎日です。1人の時間であった美術館が、共に活動する場となり、私の視野も広がりました。日々の生活ではない仲間と新しいアートの楽しみ方に出会える場所です。



とびらプロジェクトの魅力をあいうえお作文で紹介します! 「と」 歳も立場も異なる人たちが同じ目線で活動しているので、まさに刺激の連続です。「び」 美術館の最前線でアートを楽しむことができます。「ら」 ラボも活発で、自分の「やりたい」に人を巻き込んで形にすることができます。



人っていいな。アートってやっぱりいいな。知って、ふれて、考えてみる、やってみる。他人も、自分も、アートのことも。わからないわからないわからないからおもしろい(そうだ!)信じてみよう、うたがってみよう。人も、アートも、まだまだきっとこれから、だ!



とびラーの魅力はなんといっても多種多様な人のコミュニティがあることです。「みんな違ってそれがいい」という場であり、アイデアやふとした疑問がみんなの反応から思ってもみなかった結果が表れます。その変化を楽しみながらアイデアを形にするのとびラボは刺激的です。



# つどうこと心はぐくむこと

とびラボをひらこう！「この指とまれ式」と「そこにいる人が全て式」から新しいプログラムが生まれます。

3年目の仕上げ

## とびラボ

「とびラボ」とは、とびラー同士が自発的に開催するミーティングであり、新しいプログラムの検討と発信が行なわれる場です。様々なバックグラウンドを持ったとびラーにより、「この指とまれ式」と「そこにいる人が全て式」でオリジナルの活動が生まれ、アートを介したコミュニケーションの可能性が大きく広がっています。また、「とびラボ」はとびラー同士のゆるやかなコミュニケーションの場でもあり、対話から生まれる充実した時間が、美術館に新しい価値観を注ぎ込んでいます。



例えばこんなプログラムが生まれました！

### とびラボ ベビーカーツアー



赤ちゃんと一緒でも安心して美術館を楽しんでほしいという思いから生まれたツアー。展示室内ではとびラーがしっかりとサポートし、お話ししながら一緒に作品を鑑賞します。

### とびラボ 藝大卒展さんぽ



東京藝術大学の卒業・修了作品展の会期中に、藝大生と気軽に話をしながら作品を巡ります。他の参加者との会話も楽しみながら、藝大生から作品のコンセプトや、制作中の苦労話などが聞ける、一期一会の散歩コースです。

### とびラボ イロイロとび缶バッジ



展示会の要素を取り入れた缶バッジを来館者と共につくります。展示会ごとにバッジのデザインも工夫されています。作品にもっと興味をもってもらい、鑑賞の体験を覚えていて欲しい、そんな願いが込められています。

### とびラボ トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー



建築家・前川國男が設計した東京都美術館の夜の姿はとて綺麗。ライトアップされた美術館の建築物としての魅力を、夜間開館日にとびラーがご案内します。ツアーコースはとびラーのオリジナルです。

### とびラボ とびラジオ



「障害のある方のための特別鑑賞会」に来場した方に向けて、とびラーがラジオ番組を制作しました。作品から思いを巡らし、独自に創作したストーリーを収録しています。とびラボプロジェクトのウェブサイトでも聞くことができます。

### とびラボ とびらボードでGO!



お絵描きができる磁気式のボードを使い、子どもたちが展示室の作品をモチーフに絵を描きます。最後はぬりえもできるポストカードにしてプレゼント。作品をじっくり鑑賞した思い出とともに持ち帰ることができます。

### とびラボ オリジナル・モンスターをつくろう



ブルーゲルの絵の中に描かれたモンスターをよく見て、さまざまな素材や廃材で、オリジナルのモンスターをつくる造形ワークショップ。最後は、モンスターと参加者を写真で合成し、不思議な世界が出来上がりました。

### とびラボ みんなで作る！とびらくご



とびラーならではの気づきや感動を手がかりに、とびらプロジェクトの活動や東京都美術館の魅力発信する創作落語を制作しました。とびらプロジェクトのウェブサイトでもオンラインコンテンツとして公開しています。

## これからゼミ

「これからゼミ」では、とびらプロジェクトを離れた後、どの様に活動していくのかについて考え、実践します。例えば、ゲスト講師を招いた勉強会の開催や、ワークショップの実践など、各自が自分たちのスキルアップに必要な講座を自らデザインし、取り組むことができます。「アート・コミュニケータ」としての総仕上げの場です。

## 任期満了後の活動



3年の任期を満了したとびラーたちはそれぞれのコミュニティに戻ります。とびらプロジェクトでの3年間に会った人々とのネットワークや、活動や講座で習得したスキルを活かしながら様々な形で「対話」を大切に活動が続いています。美術館を拠点に育まれた沢山の小さな種が、広く社会の中で芽を出し、多様な人々、価値観を結びつけます。

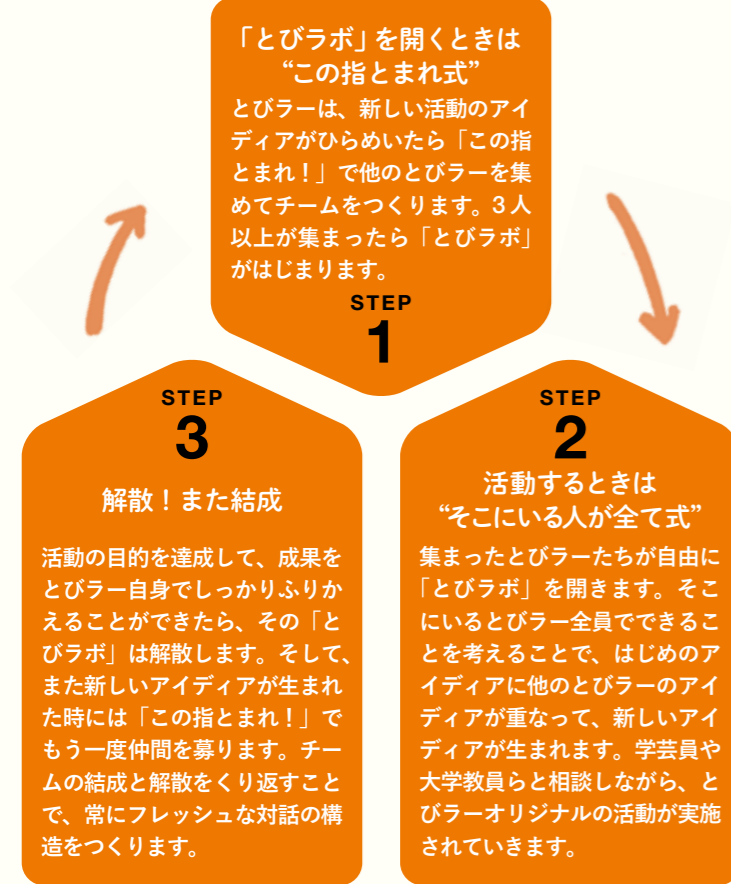
多様な人と出会えます。場が整えば、多様なアイデアとも出会えます。アイデアを受け止める姿勢があれば、それに呼応し何かが変わる自分にも出会えます。アートとは？コミュニケーションとは？一人で考えるのは大変ですが、とびラー同士で練り合い実践する時間が、ここにあります。

とびラーの数だけここにいる想いや動機があります。「美術館でこんなことができた面白い」「困難を抱える人にアートを通じて何かを」。その想いに賛同し対話を重ね試行錯誤していく過程は、ここでしか体験できない貴重なもの。形になって、出会った子どもたちの笑顔は宝物です。

とびラーになって、自分の世界が広がっています。年代もバックグラウンドも違う個性豊かな人たちとも出会えました。アートを通じて、こんなこともあんなこともできるという驚きと発見の連続です。仲間の人たちと活動をする中で、それぞれの思いや感動を共有できるのがとっても楽しいです。

多種多様な人たちが、とびラボを通じて輝いている。家庭でも職場でもない「ありのままの自分」を受けとめてくれる確かな場がここにあると感じます。アートを介した「正解のない活動」から得られる貴重な経験と、かけがえのない仲間との出会いが、人生に素敵な色を加えてくれています。

プログラムで出会ったこと、私たちの言葉や、「障害のある方のための特別鑑賞会」で来館者の方と交わった会話が心に残っています。あまりアクティブに動けない時も、できる範囲で楽しみながら、ゆるくとびラー活動を続ける中で様々な出会いや学びがあり、周りの友人や家族と一緒に新しい「扉」を開く日々です。



とびらプロジェクトでは「じっくりみる」「じっくりきく」ことを学びます。作品をみることは始まり、気がつくのとびラーとの対話を通じて新たな気づきがあり、みえる景色もきこえる音も変わります。今度はその体験を周りに伝えたいです。そんなとびらプロジェクトは私の「お気に入り」です。



# 「とびらプロジェクト」は 「Museum Start あいうえの」と連動することで さらに活動の舞台が広がりました。

museum start  
あいうえの



「Museum Start あいうえの」とは、東京都美術館と東京藝術大学が推進役となり、上野公園に集まる複数の文化施設が連携して行なうラーニング・デザイン・プロジェクトです。こどもたちの「ミュージアム・デビュー」を応援し、こどもと大人がフラットに学び合える環境を創造することを目的としています。とびらーは各種プログラムのファシリテートやサポートを担当します。

🔍 あいうえの で検索!



主催／東京都、東京都美術館・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、東京藝術大学  
共催／上野の森美術館、恩賜上野動物園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、国立西洋美術館、東京国立博物館、東京文化会館（五十音順）



## とびらプロジェクトの全貌が本になりました!

東京都美術館 × 東京藝術大学 とびらプロジェクト 編

### 美術館と大学と市民がつくる ソーシャルデザインプロジェクト

稲庭 彩和子（東京都美術館）・伊藤 達矢（東京藝術大学）著

鷺田清一氏推薦

大したことのない人が、  
大したことのない物を使って、  
こんなにすごいことができるのはなぜ？  
—— 鷺田清一

発売中

四六判・並製・272頁 発行：株式会社青幻舎 定価：1,600円+税  
書店や、インターネット書店にてご購入ください。

<https://tobira-project.info/book/>

問い合わせ 東京都美術館 アート・コミュニケーション事業担当 〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36  
Tel: 03-3823-6921 (代) メール: q-tobira@tobira-project.info

🔍 とびらプロジェクト で検索!